

2021 年度第 2 回理事会議事録

開催日 6 月 27 日(日) 11 時～13 時

開催場所 zoomによるオンライン形式

出席者: 吉田進、石田直章、徳永大作、森英二、齋藤れい、井岡雅子

以上、理事 6 名全員参加で理事会成立

オブザーバー参加: 吉田寿子、吉田彫子

議長: 吉田進

議事録署名人: 石田直章、徳永大作

《議決事項》

- 1、2020 年度決算 吉田事務局長より 2020 年度の会計について報告があり、全会一致で承認された。
- 2、2021 年度予算 吉田事務局長より 2021 年度予算案について説明があった。
徳永理事より各項目、詳細がわかりにくいと、記入できる範囲で記載した方がいいのではとの意見があり、事務局長より今後対応していくとの回答があった。
全会一致で予算案は承認された。
- 3、ガバナンスコード審査に向けて以下の規定について吉田事務局長より案が示され、全会一致で承認された。
 - ・競技者資格規定
 - ・危機管理マニュアル
 - ・委員会規程
 - ・日本代表選手役員選考規程
 - ・懲罰規程
- 4、2021 年度新組織 吉田理事長より、2021 年度組織図について説明があった。
 - ・石田副理事長より、国内大会の審判に関する組織はどこにはいるのか、との質問がでて、審判については、技術委員会のルール管理部会に、審判の技術維持の部門を設けることとなった。
 - ・徳永理事より、組織図については、持続可能な体制が必要であるとの意見がでた。2021 年新組織について全会一致で承認された。
- 5、東京2020パラリンピックバイパルタイト申請について
吉田理事長より、パラランキングの発表があり、WPPO からはパラ標準記録を突破していなくても申請可と会ったが、連盟の競技力の高い選手をパラリンピックに送るとの方針の下、男女ともMQS(パラ標準記録)を突破している選手を対象に各階級 1 位の選手を申請することになった。
- 6、世界選手権について
ハンガリーから Batumi、ジョージアに変更された。11/27～12/6
締め切りが延期されたことから、チャレンジカップも世界選手権選考対象大会となることが報告された。

《報告事項》

- 1、2022～2025 の IPC 審判更新について吉田事務局長より報告があった。
現在日本には 27 名の IPC 公認の審判がいるが、審判更新試験が 9 月にある。
以前は、競技経験者が審判になるケースが多かったが今回から、試験はすべて英語で行われ、英語力を試す試験もあることから、今後日本人の審判が大幅に減ることが危惧される。
今後どのように対応していくか、検討する必要がある旨、理事会に報告された。

2、車いすへのロゴ掲出について 吉田彫子事務員より案が示された。
理事の数名から、マスクや、ユニフォーム、靴、など車いす以外の取り扱いについて質問がでた。
これら現状の規定をクリアにして、車いすへのロゴ提出については再検討することになった。

3、 JPPF 旅費規程について吉田彫子事務員より、改善案が示され、全会一致で案が承認された。

以上、審議事項が終了したので、議長より閉会が宣言された。

書記;井岡雅子

議長 吉田進



議事録署名人 石田直章



議事録署名人 徳永大作



資料

- 1, 決算報告書(NPO 書式)
- 2, 予算書(修正)
- 3, 組織図(修正)
- 4, 旅費規程